

# Sienna's Watching - シーナズ・ウォッチング 「日本酒、ますますローカルブランド流行か」

"Local brand, small but hot!"

年末に本屋さんに立ち寄って、日本酒特集の雑誌が多いのに驚きました。最近、なんだか申し合わせたように日本酒の記事が多いですね。昨年は女性誌にも小特集を時々見かけましたし、日経新聞でも「飲みたいお酒のランキング」、などという記事をカラーで企画していました。

これらの記事の内容は、例外なく「幻の酒」の企画。かつて清酒の「越の寒梅」に始まり、最近では焼酎の「森伊蔵」に代表される流れですね。かつてない経済不況の中でも、より高品質のお酒、他とは異なった価値のお酒がほしい、という消費者嗜好は動かしがたいようです。

(text: シーナ K. エミリ 喜多産業・企画開発 G)

Right now at a bookstore, you can find a lot of magazines picking up SAKE for their special issues. Last year I also found SAKE articles even on fashion magazines and Nikkei Shinbun. SAKE seems to be one of the hottest topics in Japan.

But the contents of such SAKE stories are always focused on "MABOROSHI-NO-SAKE", rare items produced at local & small SAKE breweries. Not only SAKE but SHOCHU, Japanese traditional spirits, has become a major target for "local brand hunters." Even in this hard time of Japanese economy, there are still many consumers who long for local brands with better quality and/or vivid uniqueness.

(text: Sienna K. Emiri, Planning & Development G. / Kita Sangyo Co., Ltd.)



ちょっと古いですが、昨年5月の日経新聞に掲載された日本酒ランキング。「専門家・愛好家16人のアンケート」というだけあって、相当マニアックな「幻(まぼろし)度」の高い銘柄と言えますね。東京では有名でも全国区では知られていないお酒が多いようですが、あなたは何銘柄飲んだことがありますか? 11銘柄のうち3銘柄以上飲んだことがあれば「セミプロ級」、5銘柄以上飲んだことがあればズバリ「プロ級」に認定しましょう。

(日経新聞 NIKKEI プラス1 / 2002年5月25日)

この4冊の雑誌はすべてお正月休みに本屋さんで買ったもの。「幻の酒」、「幻の焼酎」、「蔵元紹介」など、タイトルこそ違えど、言わばすべて「ローカル日本酒の紹介」企画です。昔からこの類の企画記事はありましたが、最近は取材レベルが上がってる感じ。哲学を持って酒作りに取り組んでいるつくり手、新しい日本酒の文化を切り開こうとしている蔵元、酒と食に関するの伝統文化と蕙蓄などなど、なかなか濃い内容でした。

(「サライ」,「自遊人」,「一人」,「DIME」,すべて2003年1月号)



"Local brand, small but hot!"



今年になって、長野県・榎一市村酒造場のセーラ・マリ・カミングスさんが日経新聞一面に大きく取り上げられていました。蔵元紹介でなく「ビジネス最前線の女性」の企画記事ですが、ステンレスタンクではなく「木桶(きおけ)を使ってお酒を造る」ことにチャレンジされるとのこと。

私、シーナ・K・エミリの故郷イタリア北部でも、ステンレスタンクを使わず醗酵は「木製タンク」、熟成は「バリック(樽)」にこだわっているワイナリーが多くあります。世界に冠たる「シャトー・マルゴ」(ボルドーの1er グランヴァン。渡辺淳一著の「失楽園」で最後に二人が飲んだ、あのワイン)も、ステンレスタンクは頑として拒否、フルボディーの味わいを醸すために、殺菌・洗浄の労を厭わず「木製タンク」にこだわっている、というのはワイン技術者の方に聞いた話。

日本古来の木桶醸造という「温故知新技術」で、日本酒の新しい道が生まれると期待してます。セーラさん、がんばってね!!

(日経新聞/2003年1月4日)



昨年11月の日経新聞の焼酎ランキング。左ページの「清酒ランキング」と同じくマニアックですが、焼酎・泡盛は清酒に比べて「より幻(まぼろし)度、高し」という感じ。「エンスー度高し」と言ったほうがいいのかも。(注: エンスー: enthusiastic) 12銘柄中2銘柄以上飲んだことがあれば「セミブロンズ級」、5銘柄以上飲んだことがあれば「エンスー級(?)」に認定いたします。8銘柄以上飲んだことがあれば「ブルジョア級(?)」だなぁ、挑戦してみたい。

(日経新聞 NIKKEI プラス1/2002年11月9日)



「こだわりの焼酎あります」の広告、されど酒屋にあらず、東急ハンズ(江坂店、新大阪駅の近く)のCMなり。若者とDIY中年のお店、東急ハンズにしてローカル焼酎発掘のマーケティングとは、「恐れ入谷の鬼子母神」状態デスネ。実は、最近シーナも焼酎に凝っておりまして、「九里四里ウマイ十三里」方面(意味わかります?)の焼酎を研究しています。

なお、その上には「量り売り始めます」も。(喜多産業では量り売りシステムに力を入れております。広告写真にある「バルーン・ボトル」-本誌8ページ参照-なども直輸入で販売しておりますのでご照会ください。)



近刊の新書三点。

その1:「本格焼酎を楽しむ」。あのソムリエ田崎真也にして、「僕が日常的に一番多く飲むお酒は焼酎です」とのこと、知りませんでした。沖縄サミットで、先進国主催の夕食会の食後酒としてコース(泡盛の古酒)をセレクトしたエピソードなど。

その2:「泡盛はおいしい」富永麻子著。泡盛は急速に全日本の市民権を得つつあるように感じますね。泡盛を女性が語る、と言うのが時代の変化を暗示しているように感じます。

その3:「純米酒を極める」上原浩著。「日本酒は完全純米酒に帰結すべし」、「アル添で発酵をとめると喉い切りが悪い酒になる」、「完全醗酵に近い純米酒は切れがよく貯蔵にたえる」、業界人にとってはさうとう過激ですが含蓄深い著作と思いました。



シーナの私的分析

ロンドンやパリでもちょっとした日本料理店では、ナショナルブランドのお酒ばかりでなく、ローカルブランドまたは幻ブランドの日本酒を取り揃える時代になりました。全日空のビジネス&ファーストクラスが、機内食の「幻の焼酎」を売り物にする時代です。(機内誌で知っているだけ、ですが。)

「幻の酒」と言ってしまうとなんだか軽いですが、これは単なるブームではなく、ローカルで一途に品質とキャラクターを追求してきた蔵元の努力が、より高品質のお酒、他とは異なった価値のお酒を求める、という消費者嗜好と、マッチしたと言わべきでしょう。極端なプレミア価格は困ったものですが、幻人氣が作り手の日本酒技術向上にフィードバックされるような好循環になれば「幻ブーム」も悪くないと思います。苦戦の伝えられる地ビールも、こういったマーケティングができれば繁栄するのでしょうか。

「人気が出てよく売れば出荷量を増やし、より大きな企業体に成長していく」というパターンが資本主義の原則ですが、幻の蔵元では人気が出たからといって増産することなく、管理できる生産量しか出荷しない、というところも多いようです。ワインでいえばボルドーやピエモンテのワイナリーが、「自社ヴィンヤード(せいぜい数十ヘクタール)で取れたブドウの分だけを醸造し、その中でも優秀な製品だけをファーストブランドで売り、ランクの落ちるものはセカンドブランドにする、新技術にはそれほど関心を持たず確立された伝統的醸造法に磨きをかけて、数量を増やすことはマツタク考えない」といった事情に近いのかもしれませんが。嗜好品たるお酒の産業では、このやり方がひとつの生き方でしょう。

清酒は全体として減少傾向、焼酎乙類は微増傾向、アルコール飲料産業全体が再編の嵐、という潮流の中でも、幻の日本酒ファンは確実に増えているようです。ナショナルブランドや大規模なお酒メーカーには厳しい環境といえるのですが、最後に残るのは品質、です。幻ブランドの品質と大手メーカーの品質でがっすり四つに組み合せて、より優れた品質の日本酒に成長し、日本酒が世界にはばたいていくことを望んでおります。(text: Sienna K. Emiri)

おまけの調査です!

「ブランド知識チェックシート」

前2ページ掲載の新聞雑誌等の記事で紹介されているブランドをリストにしてみました。あなたの知っているブランドをチェックしてみてください!。

(ご注意: 紙面の都合で、新聞雑誌に掲載されていた全てのブランドを網羅できていないわけではありません。ご諒解ください。)

清 酒						焼 酎 泡 盛					
ブランド名	蔵元	チェック	ブランド名	蔵元	チェック	ブランド名	蔵元	チェック	ブランド名	蔵元	チェック
田園	西田蔵造	青森	舞姫	舞姫蔵造	長野	兼八	四ッ谷蔵造	大分	兼八	天草蔵造	熊本
吾妻蔵	吾妻蔵造	岩手	秋白庵	秋白庵蔵造	静岡	天草	天草蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
いわてっこ	あさ川	岩手	閑運	土井蔵造	静岡	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
南都農人	南都農人	岩手	響久野	青森蔵造	静岡	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
阿間	阿間蔵造	秋田	志大東	志大東蔵造	静岡	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
一ノ蔵	一ノ蔵	富枝	清寿泉	水田蔵造	富山	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
清蔵	伝清	富枝	孝蔵	孝蔵	石川	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
伯耆屋	新田蔵造	富枝	宗文	宗文蔵造	石川	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
羽前白梅	羽前蔵造	山形	天狗屋	重多蔵造	石川	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
十四代	高木蔵造	山形	一本美	一本美蔵造	福井	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
上喜元	酒田蔵造	山形	空乃井	吉田蔵造	福井	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
泉の松	泉の松蔵造	福島	黒糖	黒糖蔵造	福井	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
大七	大七蔵造	福島	黒し人九平次	高梨蔵造	富山	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
飛騨蔵	尾木蔵造	福島	榮左衛門	若菜蔵造	三重	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
花薫光	津波下蔵造	茨城	侍乃市	侍乃市蔵造	奈良	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
東蔵	東蔵蔵造	千葉	月の桂	増田徳兵衛商店	京都	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
澤乃井	小澤蔵造	東京	秋鹿	秋鹿蔵造	大分	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
神龜	神龜蔵造	埼玉	體力	木田蔵造	兵庫	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
龜の宿	久保蔵造	新潟	武蔵蔵	武蔵蔵造	広島	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
菊水	菊水蔵造	新潟	竹鶴	竹鶴蔵造	広島	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
藤城	下越蔵造	新潟	環勇	大谷蔵造	奈良	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
越乃原梅	石木蔵造	新潟	守白	守白蔵造	奈良	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
越州	朝日蔵造	新潟	東洋農人	住川蔵造	山口	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
八景蔵	富田蔵造	新潟	徳門前	木谷出前蔵造	徳島	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
八海山	八海蔵造	新潟	土佐蔵	土佐蔵蔵造	徳島	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
特別川	特別川蔵造	新潟	美丈夫	美乃蔵蔵造	徳島	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
吉乃川	吉乃川蔵造	新潟	三井の寿	井上蔵造	徳島	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本
白金	卅一市村蔵造	長野	東一	五町蔵造	佐賀	兼八	兼八蔵造	熊本	兼八	兼八蔵造	熊本

知っているブランド数が、...

65 個以上・・・達人級!

45 個以上・・・業界のプロですね!

25 個以上・・・業界人として標準!

25 個未満・・・今後見聞を広めましょう!